

酒井 正

ワークショップ報告

はじめに

東京都西多摩郡日の出町にある日の出ヶ丘病院で開催されたワークショップの報告である。研究部会では2006年よりこの病院において展覧会、およびワークショップなどを開催し、医療現場におけるアートプロジェクトの可能性を探っている。

実施概要

タイトル

日の出ヶ丘病院アートプロジェクト

びょういんへおいでよ わたしたちの！ 2009

「ひかる☆ゆらゆらランプを作ろう！」

展覧会：2009年1月25日（日）～3月12日（木）

場所：日の出ヶ丘病院・落合クリニック

ワークショップ：2009年2月28日（土）14：00 ～ 15：30

場所：日の出ヶ丘病院

参加対象：子供から高齢者まで（入院の患者さんも含む）

参加費：1,000円（保険費用含む）但し、院内患者は無料

企画：医療法人社団崎陽会日の出ヶ丘病院/人と社会の活性化研究部会

病院現場において

日頃より病院内ではレクリエーションとして美術的な活動を行っている。その大半が作品の作り方を教え、それをなぞって出来上がるだけのプログラムが多い。そのせいか参加者からは精神的な満足感が得られないという声が聴かれる。手が不自由だったり、眼がよく見えないなどの理由で、作るペースが遅かったり、細かい作業が不可能だったりする。その為、簡単なプログラムしかできないので仕方がないのである。しかし、参加者の多くが高齢者であるため、身体が不自由であっても、創造力を働かせて自由に自己表現したい気持ちを強く持っている人が多い。その様な人達が満足できるような、作業的には非常に簡単なことでも、一人ひとりの個性があふれる自己表現ができるプログラムが求められている。

プログラム説明

自由に手を動かして何かを描こうと始めても、具象的なものを描き始める参加者が多い。手が不自由な参加者が多いのもっと大胆に線と色を描いていくことを勧めている。最初に抽象絵画を鑑賞して自由に線を引いたり、色を塗ったりすることへの恐怖感をなくすことから始める。

次に少し厚手のコピー用紙に水性顔料マーカーを使用して、自由に彩色したものを袋状のランプシェードにする。コピー用紙は薄すぎてもマーカーを重ね塗りすると破れてしまったり、裏に滲んでしまったり、形に張りがなくなったりしてしまう。また、厚すぎても光が透過しないので適度な厚さの用紙を選択する。コピー用紙は安価なので予算の少ない活動では、非常に重要である。この用紙に水性顔料マーカー「プロッキー」を使用して彩色する。このマーカーは顔料を使用しているため、簡単に着色ができるのにもかかわらず発色がとてもよい。水性であるため臭いがほとんど無く、裏写りもしないので準備や片付けの手間が省ける。とてもワークショップに向く良い画材である。そして彩色された用紙を筒状にする。開いた部分の片側をステープルで止める。筒状のままよりも面が移り変わり、見え方に変化が生まれる。彩色した面を内側にするにより、光が透過したときに色の部分が直に見えないため、色が置かれた空間が曖昧になり光が透過するときの美しさがより魅力的になる。さらに、点灯した時と消灯した時の見え方に大きな変化が発生し、最初に自分の作品を点灯したときの喜びが大きくなる。電球は白熱球ではなく蛍光灯型電球を使用する。発生する熱が少ないため、火傷の可能性が少なく安全性の高い材料である。昼白色という白熱球にはない白い色の光を放つので、マーカーで彩色した部分が鮮やかに見える効果もある。電球上部に取り付けた金具により、一点で支えられたランプシェードは風によってゆらゆらと揺らぐ。紙で出来たシェード以外の部分は主催する側で制作して用意してある。

まとめ

このようにして活動をしていると、創造力・表現力を働せる行為が人間としての精神的な満足感を生み出すように思える。しかし、創造性が個性と魅力につながるようにプログラムを組むことは、参加者の状況を考えると障害が多くとても難しい。今回は紙とマーカーという特別な材料を使わずに創作したものが、光の力をプラスすることで美しく輝く作品を制作した。抽象的な表現の中に参加者それぞれのおもいがこめられた作品は予想以上に魅力的な作品が完成した。患者さんの家族や、医療現場のスタッフなど、一番身近に患者さんと接している人達から、普段は見たことのない表情でいきいきと制作する患者さんを目の当たりにして、驚きの声が聴かれた。病院生活という患者さんにとって比較的变化の少ない空間で、何かを創造して手を動かすことの重要性を改めて感じる機会であった。



ステンドグラスのような作品



シンプルだが何かが見えてきそうな作品



シンプルだが何かが見えてきそうな作品



風景が見えてくる作品



太陽と大地が見えてくる作品



つながるがテーマになっている作品



お花畑が見えてくる作品